

彫刻と空間に対する研究

芸術学部
助手

寺本 幸弥



研究シーズの紹介

本研究は自身の立体作品と環境空間との共存を考え、そこから社会との繋がりを見出して現代における彫刻の在り方を見出すものである。

現在の彫刻は古典的な木彫や塑造だけではなく、フィギュアやインスタレーション（空間彫刻）といった美術館やギャラリーでの展示だけではない様々な存在方法がある。これらは

立体造形とも呼ばれ、近年ではその中の分野の一つとして彫刻があるともいえる。本研究では立体造形を中心として展示場所を問わず、また展示空間との共存を目指すことで作品が空間に対してどのような効果をもたらすのかを検証し、作品を通して社会へアプローチすることで彫刻の在り方から社会との繋がりや発展を目標としている。



大衆に向けたアート

- 美術館などアートだけの場所以外での体験をする機会がある
- 気軽に見られることでの自然な美術教育

・展示空間の活用例



第29回アジア国際美術展
野外展示



東区芸術文化祭
なみきスクエア内展示

期待される活用シーン

- 地域のイベントや施設などで象徴的なモニュメントがほしい（例：地域産業）



その地域や環境に合わせた立体作品の制作と発表



みあれ芸術祭での野外彫刻
（作：中西秀明）

- 気軽に美術教育の機会を増やしたい（例：教育現場）



野外や美術館以外の公共施設での作品展示



その他の研究テーマ

- ・樹脂による表現技法の研究
- ・金属と異素材の組み合わせによるミクストメディア